

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592200010		
法人名	有限会社 鶴鵠		
事業所名	グループホーム逍遥亭		
所在地	宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町三ヶ所10547-1		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成24年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4592200010-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりゆったり いつも一緒 利用者それぞれのペースに合わせるゆったりとした介護
自然環境を生かした暮らし 季節ごとに野菜を栽培したり、近辺に湧水を汲みに行き、お茶などに利用している
リハビリ 暮らしの中の様々な事を生活リハビリとして活用
セラピー 猫を飼っており、利用者と一緒に触れ合う事で、心の安らぎに繋がっている
心温まるホームを目指して 日中は玄関に施錠せず、解放されたまま自由に入出りできる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの理念を基本に、我が家気分で過ごしてもらうように、施設長、職員共に細かな配慮がなされている。玄関は広く、いつも開け放され、置いてあるさすが散歩から帰った時の一休みの場でもあり、地域の方が立ち寄りやすくなっている。また、山菜を取りに行ったり、地域の方から農産物を頂いた時には、人生の先輩である利用者に聞きながら調理、保存するなど、工夫している。施設長の高い介護の質へのこだわりもあり、職員は外部研修にも意欲的に参加、資格取得にも意欲を持ち、職員の家族のことに配慮する上司の下で、グループホームの職員として誇りを持ち、利用者主体のケアに日々、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、毎朝、引き継ぎの後に唱和する事で、意識付けを行っている。ゆっくりゆったりをモットーとしながら、恵まれた自然環境を大いに活用し、各個人の残存能力を維持できるよう工夫している。	毎朝、全職員で理念の唱和をしながら、利用者が我が家気分で過ごせるように確認しあい、日々努力、工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる祭りや行事に、可能な限り参加している。今年度行われた地域全体の災害時避難訓練には、全職員と共に利用者の方にも参加して頂いた。また、年に一度の家族会には、地域の方も数名招待した。	地域の方との交流もあり、行事などにも参加している。今年は、地域の敬老会が天候のため中止になり、ホームで家族会・敬老会を合わせて行い、地域の方も招待し、大変喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域における認知症介護の拠点となれるよう、活動目標をたててはいるが、実践までには至っていない。施設長が、町より依頼があり、町内三ヶ所の地区で、認知症介護の話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、多方面の方に出席して頂くように案内を出し、活動、サービスの提供の状況を報告した上で、出席者の方に意見を出して貰っている。その意見をきっかけに、カゴつくりを行った例がある。	毎回、案内状に工夫をこらし、出席者が偏らないように注意している。地域の方の出席や町とのつながりもでき、情報提供の場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催のケア会議に毎月参加し、利用者・施設の現状を伝えたりしている。施設長が町の策定委員のメンバーになっており、介護現場の実情を述べる機会がある。	高齢化率が高い町であり、町から依頼を受け、施設長も積極的にかかわり、講演をしたりしている。そのことにより、地域の方から悩み相談を受けることもあり、パイプ役としても連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当時から玄関は施錠せず、日頃から身体拘束による弊害についても学んでいる。ベットの柵を使わずに済む方法など工夫して行っている。	玄関の鍵、庭の柵もなく、見守りに工夫している。また、日ごろから他所で起こった事例をもとに研修して学び、努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会で学んでおり、通報の義務がある事も知っている。実例をあげ、なぜそのような事態が起きたかを理解し、自分達の現場に置き換え、考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会でテーマとしてあげ、施設長より説明を受けている。この数年、新たに手続きした事例はないが、過去には関係者との話し合いにて、権利擁護の利用に至った方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、時間を掛け説明し、料金に関しては、自己負担分などの理解を得るようにしている。改定による変更、加算については、文書で説明不明な点については個別に、また、機器のリースについても必要性を説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、重要事項説明書には施設長、ホーム長の携帯番号を記載し、苦情受付窓口も明確にされている。家族会を開催し、交流を深める事で、意見を出しやすいようにしている。	職員は、利用者の表情や動作、言葉から思いをくみ取るよう努力している。また、家族から意見が出やすいように、来訪時に一緒に食事をしたりするなどの工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会で、職員一人ひとりの意見を聞く場を設けている。それ以外の場合でも、意見を聞いて貰っており、これまでに多くの事が実践されている。	職員は、日常から利用者の立場に立ち、意見を交わし、月1度の全体会へつなぐなどしている。施設長、管理者も、日ごろから意見を聴く体制ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長自ら園内研修を行ったり、外部の様々な研修にも盛んに参加させ、職員全体のスキルアップを目指している。資格習得へのバックアップ体制も整っており、資格手当の支給も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量に差が生じないよう、経験、資格に応じた研修への参加を積極的に行い、キャリアアップへのバックアップ体制として、技術指導など、施設長自らが行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入しており、協会主催の研修会に毎回参加し、他事業所との交流を持つ機会がある。施設見学の依頼があれば受け入れ、こちらからも他事業所へ出向く事もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学の時から、積極的に関わりを持ち、入所後の不安や寂しさなど受け止め、職員間で情報共有している。また、他利用者さんにも関って頂けるように、働き掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず何が大変なのかを聞き取り、ホームの方針を説明し、理解して頂き、少しでも不安や戸惑いを軽減できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時の状況で、家族に他のサービスのある事業者の情報を提供したり、保険者に相談したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さん一人ひとりの出来る事、持っている力を生かせる場を多く作り、積極的に日常の家事に参加して貰っている。料理法、漬物の漬け方、生活の知恵など、利用者から教えて頂く事も沢山ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の活動や手紙で、近況報告をし、面会の遠のいている家族には、それとなく来園をお願いしている。お盆、正月の帰省のお知らせ文書を出し、介助が必要な場合には、支援する事も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のなじみの美容院や行きつけの衣料品店、入所前からの医療機関を利用しており、多くの知人の方から声を掛けて頂いている。ドライブを兼ね、暮らされていた地域に出掛ける事もあり、訪問についても、いつでもどうぞと声掛けをしている。	利用者のなじみの美容室に行くなど、家族の了解の下、支援している。また、今年は、家族会も利用しながら、家族代表だけではなく、離れている家族にも連絡をとり、親族会わせの場となり、大変喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性を把握しており、席の配置や活動時の組み合わせなどに配慮している。トラブルが起こった際には、相互への尊厳を持った介入を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先やサービス事業者に情報提供書を作成している。機会があれば、転所先の担当者や家族より近況を聞き、必要があれば助言もしている。また、可能であれば、家族の許可を得て面会に出向く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動などは、そのまま記録に残し、全職員が読む事でその方のやりたいこと、行きたい場所など、いろんな思いをくみとるようにしている。	職員は、日ごろから、利用者との会話、表情や動きに注意をはらい、思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでセンター方式を利用しており、入所時に家族、本人より聞き取りを行っている。利用開始後も、その方が言われた人の名前、地名、初めて聞く言葉などを記録に残し、家族より聞き取ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時から食事の様子、生活リハビリやレクリエーション活動などの中から、言動や行動観察を行っている。また、一人ひとりの出来る事、出来ない事も把握し、変化が出て来たときには、職員間でお互いに報告し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に近況報告を行い、意向の確認も行っている。それらの事を、月一回の会議の中で全職員へ報告している。また、その会議の中で、全職員の意見を出してもらい、計画に取り入れている。	利用者の日々の記録を全職員と共有し、遠方の家族の方には電話で説明して、希望を聞いている。このことが、毎月の会議で生かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、その方の言動、行動も細かに書いてあり、その時の状況やその方の精神状態の把握がしやすくなっている。記録を見る事で、計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の要望が多くあり、その日の天候などで急遽、ドライブに出かける事がある。外出支援には、シフト外の職員も協力的で、柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し、利用者さんへの理解を深めて頂くようにしている。万が一、離園が発生した場合に備え、近くのタクシー会社へ協力依頼をしてある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内に病院が一つしか無く、殆どどの利用者が入所前よりそこに通院されていた。専門科受診の際には、家族、本人の同意を得ている。昨年度の歯科協力機関については医師不在の為、他の歯科を受診しており、そこから往診もされている。	五ヶ瀬町内に病院は1つであり通院支援をしている。何もなくても、2か月に1度は診てもらい、安心してもらっている。歯科医からは、往診してもらうようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや全身状態の変化など、気づいたことはその都度、看護師に報告をしている。それにより、看護職は必要があれば、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、サマリーを作成し、介護上の留意点などを申し送っている。また、入院中、ほぼ毎日面会に行き、病院看護師より様子を聞いたりして、BPSDの状況次第で、は早めの退院を医師、家族と相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明をし、意向確認を行っている。その後も段階に応じ、確認を行い、希望により医療機関の協力の下、可能な限りの医療行為を実施した事例がある。その際、職員一人ひとりに、最後の看取りまで行う覚悟についても確認を行った。	入居時に、ホームでできることを説明している。家族の強い希望で、医療機関の協力の下、全職員が看取りまで行う覚悟で臨んだこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は、施設長指導の下で実施していたが、新しい職員が入った以降から、現在までは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、地域全体の災害時避難誘導訓練が実施され、利用者、職員共に参加している。また、地元の消防団との火災訓練も行っている。その際、誘導時のいくつかのリスクが浮かびあがり、実際の災害時に備え、職員間で話しあった。	今年度、地域の災害訓練に参加したり、地元の消防団との火災訓練も行われている。その際、水害など、ホームが避難先となりうることもあり、備蓄量を増やしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段より、利用者を先輩として敬い、言葉掛けには配慮を行い、家族的な関係作りに努めている。一人ひとりの経歴、個性を尊重した介護を行っている。	職員は、普段から利用者への言葉かけに注意しており、気づいたらお互いに注意しあい、利用者のプライドを傷つけない配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定可能な方は、それを尊重し、困難な方には、複数の選択肢を用意し、その中から決めて頂いたり、表情や行動から判断するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床が遅い人、すぐに横になりたい人、散歩に行きたい人、また、ゆっくりとテレビを見て就寝したい人と、それぞれに自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望があれば、馴染みの美容院を利用してもらい、衣類購入の要望があればドライブを兼ね買い物に行ったり、近くの衣料品店より外販に来て頂き、自分で選んで貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の揃え方、皮むき、切り方、つぎ分けなど、その方の出来る力に応じて参加して貰っている。利用者、職員がテーブルを囲み、同じ食事を食べ、談話をしながら楽しんでいる。下膳、食器洗いも進んでやって貰っている。	利用者は、野菜の皮むき、配ぜんなど、できることをしながら準備に参加している。また、ホームで取れた野菜、山菜などの保存食作りにも力を発揮しており、食事に利用している。職員も同じテーブルで同じ食事をとりながら、和やかに楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を食べられない方、一日二食の方、肥満傾向にある方など、それぞれに応じた食材選びから分量の調整などを、日々検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科より指導して頂いた、口腔ケアの方法を実践している。毎食後、声掛けしているが、中には拒否される方もあり、その時その時の誘導の仕方を工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方も、出来るだけトイレで気持ちよく排泄して頂く為に、利尿剤の効果やその方の動きなどを観察して誘導している。自立の方で、漏れによりパットを使用されている方には、自尊心を傷つけないような声掛けをし、確認、交換をさせて貰っている。	職員は、利用者の表情や動作を観察し、排せつの誘導をしている。排せつ後は、利用者の自尊心を傷つけないように確認などを行い、2つの疾病をみつけている。また、穏やかな言葉かけで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常から食事、水分、散歩などに留意し、繊維の多い物を意識して取り入れるようにしている。排泄自立の方は、排便確認が難しいので、入室時間の長さ、臭い、後処理の具合などで判断している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	シフトにより、主に午後からの入浴を行っている。出来るだけ、希望に沿うように努めているが、中には入った事を忘れて「数日間入っていない」と強く言われる方もおられ、困っている。	午後からの入浴としているが、利用者の希望に沿うように努めている。利用者の中には、入浴したのにしてないと言われる方もおり、個人のカレンダーに自身で印をつけるなど、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の状態があると、前日の様子、居室環境などから、原因を探り出すようにしている。夜間不眠の時には、ホットミルクをお出している。日中は、昼寝の時間を取って、思い思いに休息を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録のはじめの部分に、薬の説明書きを入れているので、いつでも内服については把握できるようになっている。処方変更による状態の観察をし、変化があれば、主治医へ報告している。内服の管理はすべて職員が行っており、服薬確認までしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者からの仕事の催促が多くあり、各個人に負担にならない程度の作業をお願いしている。自然環境に恵まれており、季節ごとの山野草、参竹、木の実などの収穫も楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関のカギは掛けておらず、いつでも自由に散歩を楽しめるようになっている。季節に応じてドライブにも出かけ、職員の家族が支援として同行した事はあるが、地域の方への協力要請はしていない。	利用者が、いつでも自由に散歩できるように玄関は開放しており、職員も見守りをしている。時には、商店へ買い物に出かけたり、また、衣類販売に来てもらうなど、工夫している。ドライブなどにもよく出かけており、職員とともに楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、金銭の管理は家族へ説明、承諾の上で施設側が管理しており、定期的に出納報告を行っている。中には、入所時に、自分で所持されていた方がおられ、職員はその事を把握しており、外出の際、細かなものは自分で購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けたい、手紙を出したいと言われる方はおられず、職員が家族へ用件があり、連絡を取った時に取り次いでいる。家族からの手紙が来た時に、読み聞かせは行うが、返信を出す支援は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節の花、行事の飾りつけをし、アロマや音楽で癒しを行っている。テレビ、洗濯の音、炊事の匂い、人の話し声と気配など、安心感のある空間になっている。テラス、窓からは、四季折々の木や草花も楽しめ、癒されている。	共有スペースには、暖炉が危なくないように設置されており、風通しもよく、彩光なども温かさの感じられる作りになっている。窓から四季折々の風景もよく見え、散歩で摘んできた草花も飾られ、利用者は落ち着いて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース、居室にはソファ、椅子があちこちと置いてあり、自然と集まり、何気ない会話を楽しんでいる。一人になりたい方は、少し離れたソファや居室で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より家具、仏壇を持ち込まれており、家族やご自分の写真を沢山貼ってある。各利用者ごとに、居室内の雰囲気が違ったものになっている。ベッドの配置に降りる方向、家具の位置など、入所前の様子などを聞き取りしたことより配慮している。	居室には、自宅で使い慣れた家具が置かれ、家族や自身の写真など飾られている。利用者の中には、仏壇を置いている方もいる。各部屋は、雰囲気が違い、カレンダーや時計も置かれ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を発揮できる環境を、出来るだけ多く提供するように努めており、常に自立支援を心掛けている。		